

学校紹介

山口県立山口中央高等学校 P T A副会長 小野俊雄

はじめに

本校は、明治20年に大日本教育会山口支会事業として、山口町早間田に開校した私立山口女学校以来、今年創立一三五周年を迎える県内屈指の伝統校です。

幾度かの変遷の中で、昭和30年に、県立山口高等学校から分離し、「県立山口中央高等学校」となり、現在に至ります。

また開校以来、県の女子教育の中心校としての役割を担ってきましたが、平成11年には初めて男子生徒が入学し、現在では4割余りにまで増えています。

恵まれた環境の中で

現校舎は、平成7年にそれまでの中園町から宮島町に移転されました。竣工から26年たちましたが、未だ美しさが保たれており、来訪された多くの方が、校舎や周辺の景観の美しさを感想として述べられます。

中庭には、ウッドデッキ

キヤ、中園町校舎から移設された噴水が設置されている他、丸窓をはじめとする幾何学模様が、校舎内外に配置され、豊かな情操を育むための配慮が感じられます。

また、生徒昇降口にはレリーフが設置され、φ三角形（2つの底角が72度の二等辺三角形）の性質が解説されていますが、この三角形も校舎のいたるところに散見されます。



景観だけでなく、校内には、各地で活躍されている卒業生の制作されたオブジェや絵画などの芸術作品も随所に展示されています。

これらは、現校舎建設に携わられた多くの方々の熱意と愛情が具現化されたものであり、子どもたちは、こうした恵まれた環境の中で、学校生活を満喫しています。

学校生活では

落ち着いた環境の中で、熱心に学習活動が行われており、授業だけでなく、始業前の「朝学」や、学習内容の理解を深めるための「今週の課題」等により、学力の定着と一層の向上に取り組みられています。

こうした従来からのものに加えて、

昨今はICT教育も積極的に進められています。

平成31年度に、iPad45台が、かなめ会（同窓会）から寄贈され、先鞭を着けるとともに、当初予定された、教科や「総合的な探究の時間」における活用だけでなく、遠隔講義や、卒業式後のホームルーム中継などに活用されました。

翌年には、国と県の事業によりすべての教室に電子黒板が導入された他、今年度から生徒一人ひとりにタブレット型パソコンが貸与され、これを用いた教育活動が本格的に始まっています。

これらは、授業だけでなく、お知らせやアンケートの実施にも活用されており、アンケート結果でも、生徒・保護者の方々にはおおむね好評のようです。



コロナ禍の中で

コロナ禍により、昨年度は、1学期のクラスマッチが中止になりました。そこで、文化祭の時期に、文化部発表と併せて競技会を行い、翠嶺祭として開催されました。（例年本校では、文化祭が「翠嶺祭」と呼ばれています。）

このとき、PTAとして何かお役に立てないか学校と相談し、役員でジュースとアイスクリームの販売を行いました。子どもたちの笑顔には救われる思いでしたが、前年までの翠嶺祭を知る保護者の方は寂しい思いで一杯だったようです。

今年度は、コロナ禍が小康状態の時期にクラスマッチが実施され、また合唱大会も、規模を縮小し、非公開にはなりましたが、1学期末に開催されました。これを受け、文化祭も通常日程での開催が期待されましたが、最終的には、非公開での文化部発表と有志のパフォーマンス発表のみとなりました。



一方、部活動は、コロナ禍ゆえの苦勞をしながらも、運動部、文化部ともに熱心に活動しています。体操部は毎年全国大会に出場しています、今年度は、陸上部、弓道部、バドミントン部、放送部、ハンドボール部が中国大会に出場し活躍しました。

また、山口県高等学校文化連盟の設立以来、本校に事務局が置かれ、様々な文化部活動のお世話をされています。このためか、文化・芸術活動が盛んで、個人で取り組む生徒も少なくなく、今年度も「全日本学生音楽コンクール」で入賞する生徒が出ています。

進学状況

卒業後は、多くの生徒が上級学校に進学しています。市内にある山口大学や山口県立大学への進学を希望する者が多く、昨春は2校合わせて41名が合格しました。子どもたちの努力もさることながら、普段の指導に加えて、面接や小論文の指導など長期間にわたり、先生方に、丁寧にご指導いただいた賜物だと感じます。

大内・小鯖協育ネット

令和2年度から大内中学校区の学校で構成されている大内・小鯖協育ネットに加入し、あいさつ運動はじめ、小・中・高と異校種での協働の取組が行われています。

このネットワークや、本校の学校運営協議会のつながりの中で、高校生の学校内外での活躍の場を設けていただいたり、紹介していただいたりして、子どもたちは様々な活動に参加し、豊かな人間性や社会性の涵養につながっています。それと同時に、大内地域唯一の高等学校として、地域とともにある学校としての地域貢献も進められています。

PTA組織について

ホームルームごとに選出された保

護者評議員（2名×15クラス＝30名）から、会長1名、副会長3名、監事2名を選出し、これに顧問（前会長、校長）を加えて「PTA役員」とし、企画・調整にあたるとともに、専門部として、総務、研修、生徒指導、進路指導を設け、それぞれの部長・副部長を中心に先生方と協力して、例年、学校行事等に参加・協力して、活動しています。

今年度のPTA・教育後援会総会では、定数に関する規定を見直し、書面による開催でしたが、総会を経て、PTA会則を改正しました。

これまで、副会長は3名で、内1名は教頭先生にお願いしていました。しかし、教頭先生には校内の立場の業務もあることから「加えることができる」と変更し、保護者3名が副会長につく形にしました。これにより執行部のメンバーが一人増え、また、仕事の継続性も図りやすくなりました。

さらに、先生方をお願いしていた事務局職員（書記、会計、総務）も、「若干名」として具体的な人数を定めず、状況に応じて校内で役割分担を調整していただきやすくなりました。これからも、適宜見直しを行いながら、活動しやすい組織づくりを進めていきたいと考えています。

PTA活動について

今年度もコロナ禍で様々な行事が

中止または縮小される中、学校とPTA執行部で相談し以下の活動を行うこととしました。

1つめが11月8日から1週間行われた学校正門前でのあいさつ運動への参加です。大内・小鯖協育ネットの加盟校が一斉に行うこの行事に、PTA執行部のメンバーも参加しました。あいにく雨が多い週でしたが、生徒会・JRC部の生徒とともに笑顔で元気よく登校する生徒を迎えられました。

2つめは3月17日に開催される予定の高校生熟議です。生徒会を中心として、PTA執行部や学校運営協議会の方々と交え、テーマは「校則」で行われる予定です。日頃、生徒が関わっている大事な規則について、今の時代にマッチしたものか、またこれからはこうあるべきだなどの議論が期待されます。

また、例年PTA主催で行ってきた文化講演会は、高文連自主事業を活用させていただき、山口市民会館大ホールにて



山口県交響楽団の演奏会を開催しました。PTAからは、主催者として会長が開式の挨拶を述べましたが、こちらも感染拡大防止のため、残念ながら、保護者の参加はかきませんでした。

臨時評議員会の開催

組織のところでも述べたように、コロナ禍のため、総会は2年連続で書面での開催となりました。ただ、評議員会は、実際に集まって、顔を合わせての協議ができています。定例の評議員会に加え、昨年度、今年度と、修学旅行の実施の可否、時期や行先などについて、2学年評議員会を臨時に開き、先生方と意見交換を行いながら、実施に向けて協議しました。今年は、6月28日に行いましたが、お陰様で修学旅行は、中止にならず、子どもたちは、高校時代の楽しい思い出を残すことができました。

おわりに

今年度はこのような活動を行い、次年度以降はコロナ終息により、多くの学校行事が開催されることを願いつつ、少しでも多く生徒たちに歩み寄れる活動をして行きたいと思えます。